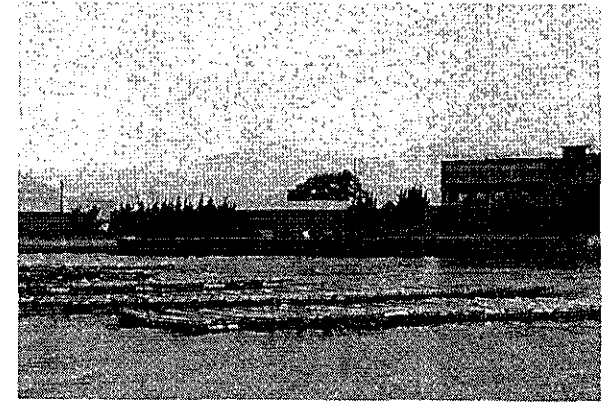


長野構成員ヒアリング 参考資料

愛南町の精神保健医療福祉住民活動

資料

社会復帰施設平山寮 発足目的(S49年・渡部嵐)



- 病とともに、帰るべき家庭を、生きるべき場を、あるいは又、続くべき人生を見失った人達がいる。それらの人達が、共同生活の場と通して、自分達の手で自活の道を開き、よりたくましくなり、うまくこの現実社会を乗り越えてゆけるようにとの願いをこめて、この試みは始められた。
- ここが、第二の我が家になるように。そして、もし社会に出て失敗しても、病院ではなく、ここへ帰り再起をはかる場所となるようにと。

原点一平山寮の取り組み

病院を退院した寮生が
地域住民の強力な支援を受け
養豚・農業・漁業に取り組み
自主運営・自主管理を実践し
地域で自立生活の道へ



S49～S50年代にかけて、活発に活動。その後、中核になる寮生の自立などから徐々に低迷した。(制度的支援の無さも大きく影響)しかし、愛南町の伝統文化“闘牛”を通じて地域住民とつながり続けたり、H8年からは住民活動の拠点としても、その理念と実践を細々とつないできた。



南宇和心の健康を考える会

目的:精神保健福祉の向上を図るため、関係機関が連携・協働し、普及啓発、調査研究、こころに関する事業を行う。

構成:精神保健福祉に関わる行政機関及び公共的団体の職員、医療関係者、社会復帰施設などの職員、家族会、当事者グループ、ボランティアグループ関係者、心の健康に関与する地域住民など

S60「愛媛県南予地区精神衛生大会」を契機に発足(S62年御荘保健所の強力なリーダーシップで)

年4～6回定例会(研修会)、年1回大会、ニーズ調査等心の健康全般をテーマに取り上げきたフォーマルネットワーク。各団体が「事業」として位置づけ。～安定した組織

南宇和(精神)障害者の社会参加を進める会

• 目的

なんぐんにおける精神障害者の社会参加を促進するため、必要な支援活動を行うことにより、これらの人々の福祉の増進をはかる

• 事業

- 1 精神障害者への理解向上と偏見除去の為の啓発活動
- 2 地域のボランティア育成の為の活動
- 3 就労援助の活動
- 4 住む場・集い憩う場の確保の為の支援
- 5 地域における「心の健康」の推進活動
- 6 その他必要な事業



シンボルマーク“牛鬼”
郷土の版画家 兵頭俊朗 画

- H元年設立。個人会員1303名。会長(町長)、副会長(ライオンズクラブ会長、地元精神科病院長)

- 事務局(御荘保健所→H15年地域生活支援センターいりり)

～官民一体から住民・当事者主体へ～
～精神障害から三障害へ～H18年

南宇和ライオンズクラブ



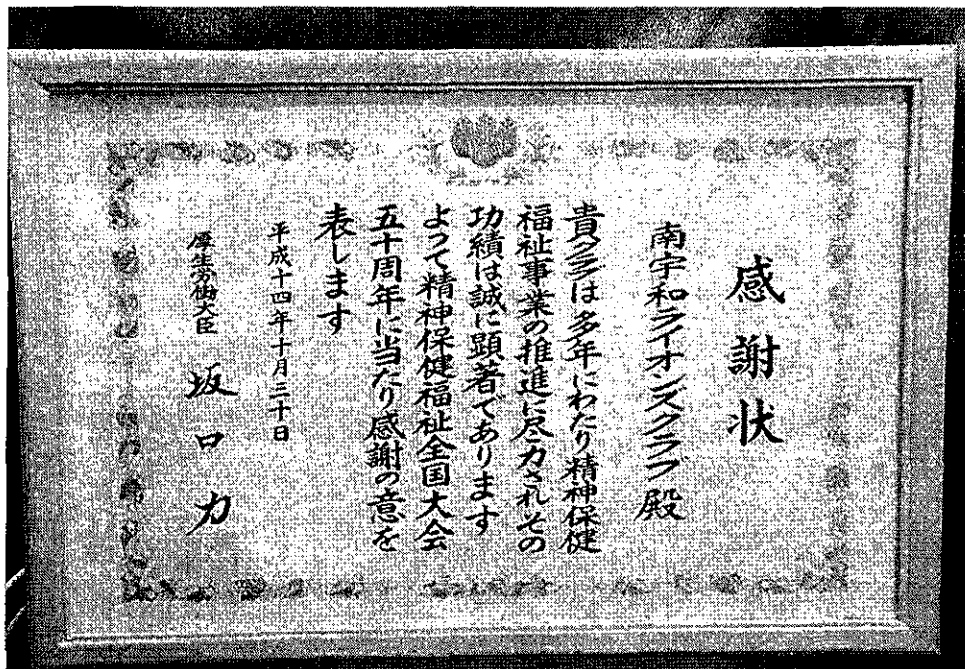
63.2.26

社会復帰を後押し

精神障害回復者と交流

和 宇
ライオンズ

南宇和ライオンズクラブは、精神障害者の社会復帰を支援する活動の一環として、この中で、
 平成十四年十月三十日、
 愛媛県から、地域特性に合った
 施設から、精神障害回復者と交流
 する機会が設けられた。ライオンズ
 会員の協力により、精神障害回復者
 の社会復帰を後押しする活動が、
 行われた。この中で、精神障害回復
 者と交流する機会が設けられた。ライ
 オンズ会員の協力により、精神障害
 回復者の社会復帰を後押しする活動
 が、行われた。



愛媛新聞
S63.2.26

20年以上に渡り、スポーツ交流などの事業を継続「進める会」会員の中核に多くのライオンズ会員 当地のネットワークに欠かせない存在



南宇和障害者の社会参加を進める会

(H元年～、個人会員1,303名)

世代を越えて、障害の有無に関わらず、共に



「進める会」南宇和福祉リサイクル活動

- 「進める会」の交流活動の中で出会った主体的な多職種の地域住民が主導でH8年開始。年間延べ1000人を越える参加者、今年で13年目。
 - うどん屋(代表)、大工、漁師、御荘かき養殖、整形外科医、平山寮生などで立ち上げ
- 当初はリサイクル品をイベントなどで販売、常設店づくりを目指した。
- 呼びかけの言葉は「勝手にボランティア、みんなついなんやけん(みんな同じなのだから)」
 - 『当事者と共にふつうの住民の参加・参画を目指し、義務感より「楽しさ」で惹きつけたいという思いがありました。ボランティア活動の参加に関しては、継続参加の難しい人たちもおられます。久しぶりの参加に敷居が高くないような配慮が必要でした。得てしてありがちな「やってあげている」という思い上がりに陥らないような注意も必要でした。そのようなことから自戒を込めながら「ハートinハート勝手にボランティア」というネーミングができあがりました』(立ち上げメンバーの一人:渡部三郎氏)
- 障害を持つものも、持たないものも同じ地域住民として街づくりを行う市民活動。
- あまなつコンサート、人形芝居ふかなど子供からお年寄りまで楽しめるイベントを「平山寮」を拠点に開催し続けている。
- H12年夢の常設リサイクルショップ「ハートinハートなんぐん市場」開設。
- あまなつプロジェクト(放置竹林の整備とその竹の炭化を核とした地域資源循環型プロジェクト)、森林ボランティアなど環境問題に取り組み。
- NPO法人ハートinハートなんぐん市場の基盤。(NPO法人立ち上げ後もボランティア活動は継続)

なんぐん地域ケア研究会

南宇和郡医師会主催 H8～



目 的

この会は、南宇和の住民が「共に生きる街なんぐん」を目指し、話し合い・考え・活動・発信することにより、自助、公助、共助が協力し、より良い街づくりに貢献することを目的とする。

テーマ

認知症ケア
介護全般
家族支援
医療
子供の見守り
障害者福祉
まちづくり
など

定例会・大会

95回

なんぐんのネットワークの特徴

- 一地域、一保健所、一精神科病院という密な連携と、それを強力に支援して下さる地域住民で立ち上がった精神障害者を支援するネットワークを基盤として、障害の有無にかかわらず、障害種別を問わず共に街づくりを行うネットワークへ。
- 子供から高齢者まで、男性も女性も、ふつうの住民の参画。
- 専門職も一地域住民としての参画を心がけている。
- 多様な組織形態(官～官民一体～民)、多様な切り口の組織同士が「共に生きる街なんぐんへ」という共通の目標に向かって緩やかなネットワークを形成している。
- 既存の団体との協働(ライオンズ、婦人会など)
- 強い顔の見えるつながり～2代3代に。幅広い年齢層。
- 他地域とのつながりを大切にしてきた。

ふつうの住民:それぞれの分野とは本来関わりを持たない地域住民の方々。障害者福祉をはじめそれぞれの分野が地域に根付くために不可欠な存在だと考えている。